

【導入】

[録画開始]

1. 今日は \_\_\_\_年\_\_月\_\_日で、時刻は\_\_時\_\_分です。  
私は ○○○○さん(子ども氏名)に、 \_\_\_\_\_(場所)で面接をします。

《 サポーターに励まされて、子ども入室 》

こんにちは。今日はお話に来てくれて、どうもありがとう。《 面接者は迎え入れ、席に案内し、座ってもらう 》  
私の名前は \_\_\_\_\_ です。私の仕事は子どもからお話を聞くことです。この会話は録画します(機材説明)。私がお話を忘れないように、後で見ればわかるようにするためです。<sup>1</sup>

2. ラポール:

- 今日はお話に来てくれて、どうもありがとう。○○さんとお話できて嬉しいです。○○さんのことをもっと知りたいので聞かせてください。○○さんは何をするのが好きですか。[誘いかけ、それから、時間分割、手がかかり質問の4種類のオープン質問で話してもらい]はい、よくわかりました。どうもありがとう。このようにお話ししてくれるととてもよくわかります。今のように(たくさん)お話ししてください。
- 今度は(学校/保育園等)であったこと、何か楽しかった(嬉しかった/面白かった)ことを話してください。[4種類のオープン質問で話してもらい]はい、よくわかりました。どうもありがとう。このようにお話ししてくれるととてもよくわかります。今のように(たくさん)お話ししてください。
- ○○さんは、(楽しかった/嬉しかった/面白かったこと)を話してくれましたね。今度は(学校、幼稚園等【虐待があった可能性のある場所は出さない】)であった、嫌だったこと(楽しく/嬉しく/面白くなかったこと)を話してください。[4種類のオープン質問で話してもらい]。気持ち、考えについても話してもらい。話してくれて、どうもありがとう。○○さんは、(楽しかったこと、悲しかったこと)を話してくれました。そして、○○さんの(気持ち、考え)も話してくれました。話してくれてどうもありがとう。○○さんは、いいことも、嫌なことも、どんなことでも私に話ができる、というのがわかりましたね。これはとっても大事なことです。

3. お話を聞く前にお願いがあります。(※は練習課題)

①わからない: もしも私の質問の意味がわからなかったら、「わからない」と言ってください。

②知らない: もしも私の質問の答えを知らなかったら、「知らない」と言ってください。

\*では練習してみましょう。

「私が飼っている犬の名前は何か」と聞いたら、○○さんは何と言いますか。

[ 正しく「知らない」と言ったら ]	[ 「ボチ」等と言ったら ]
そうですね。 知らないときは、今のように「知らない」と言ってください。	○○さんは、私の家に来たことがないから、私の犬の名前は知らないでしょう。 知らない時は知らないと言ってください。

③間違い: もしも私が間違ったことを言ったら、「間違ってるよ」と言ってください。

\*では練習してみましょう。

私が「○○さんは2歳(または「幼稚園」などの間違い)ですね」と言ったら、○○さんは何と言いますか。

[正しく「間違ってる」/「違う」等と言ったならば] そうですね。私が間違ったら「間違ってる」と言うのがわかりましたね。私が間違ったら、今のように「間違ってる」と教えてください。

④本当: 私の仕事は子どもからお話を聞くことです。たくさん子どもにあって、本当にあったことを話してもらいます。○○さん、今日は本当にあったことを話すのがとても大切です。本当にあったことを話してください。<sup>2</sup>

4. 出来事を思い出して話す練習: ○○さんのことをもっと知りたいので聞きますね。前のことを思い出して話してください。今日朝起きてからここに来るまでにあったことを最初から最後まで全部話してください。/(または/および)この前(先週,先月), 誕生日だった(イベントがあった)と聞きました。そのときのことを話してください。その日にあったことを最初から最後まで全部話してください。

[4種類のオープン質問で話してもらい] はい、よくわかりました。どうもありがとう。このようにお話ししてくれるととてもよくわかります。今のようにたくさんお話ししてください。

⑤全部話す: どんなことでも、本当にあったことを全部話してください。

<sup>1</sup> (必要に応じて)別の部屋で、私が○○さんからちゃんと聞いているか、一緒に仕事をしている人が見てくれます。あとで、私がちゃんと聞いているか、相談に行くこともあるかもしれません。

<sup>2</sup> (必要に応じて)では練習してみましょう。「私の靴は赤い」と言ったら、これは本当ですか、本当ではありませんか。(本当は黒) [正しく「本当でない」と言ったならば] そうですね。私の靴は黒いので本当ではありませんね。では、○○さんが今、座っていると聞いたら、これは本当ですか、本当ではありませんか。(本当に座っている) [正しく「本当」と言ったならば] そうですね。○○さんは座っているのです。○○さんが本当のことと本当でないことの区別がよくわかっている、ということがわかりました。今日は、本当にあったことだけを話してください。

## 【本題への移行】

5. それでは、こんどは〇〇さんがどうしてここ（一時保護所や面接を行なう機関）にいるか（または来たか）話してください。今日は何を話しに来ましたか。

[ 出てこなければ、次のように言う ]

- ① 〇〇さんが / \_\_\_\_\_ (いつ) , / \_\_\_\_\_ (場所) で, / \_\_\_\_\_ (通告した人) に, / 話をしたと聞いています。何があったか話してください。
- ② 〇〇さんの \_\_\_\_\_ (体の場所) に 傷 (または、あざ、跡、など) があります (または、あると聞きました)。その傷 (または、あざ、跡) ができたときのことを、最初から最後まで全部話してください。

【出来事分割】 (5で被面接者が「～するから来た」等、意味記憶のように話し始めた場合に用いる)

6. そういうことがあったのは1回だけですか、それとも1回よりも多いですか。

[ 「他にもあった」「いつも」「たくさん」などと言ったならば ] それでは一番最後のとき (または、一番よく覚えているとき、一番最初にあったとき) のことを話してください。

## 【自由報告】

7. オープン質問

- ① 誘いかけ：何があったか全部話してください。
- ② 時間分割：A してから B までのことを、全部話してください。
- ③ 手がかり質問：さっき Aと言っていたけれど、そのことを (について) もっと話してください。
- ④ それから質問：それから (何がありましたか) ? そして (どうしましたか) ? そのあとは (どうなりましたか) ?
- ⑤ エコーイング：(子どもの言葉を繰り返すのみ)
- ⑥ 返事：うん、うん

8. ブレイク

- ① たくさん話してくれて、どうもありがとう。これから、私がちゃんとお話を聞いているかどうか、別の部屋で見てくれる人に確認してきます。待っててもらっていいですか。  
《 面接者退室→観察室で相談→面接室に戻る 》
- ② 待っててくれて、どうもありがとう。それではあといくつか質問します。

9. WH 質問 (ペアリングを)

10. クローズド質問 (ペアリングを)

11. 確認のための質問 (会話/目撃者・他の被害者/開示/疑われている事柄に関する質問)

これらの質問は誘導・暗示となる可能性があるため、必要な場合のみ、面接の最後の部分に行う。回答を得たならば、オープン質問に戻り、自由報告を求める。

- ① その人は何か言いましたか。
- ② 他に誰か言いましたか。
- ③ このことを知っている人は他に誰かいますか。 / その人はどうしてこのことを知っていますか。
- ④ (疑われる事柄) されたことはありますか。 / 誰かが (疑われる事柄) しましたか。

## 【クロージング】

12. たくさんのことを話してくれました。助けてくれて、どうもありがとう。

- ① 知っておいたほうがよいこと：他に、私が知っておいたほうがよいことは、ありますか。
- ② 話しておきたいこと：他に、〇〇さんが私に話しておきたいことは、ありますか。
- ③ 質問：〇〇さんからは、何か質問はありますか。
- ④ 連絡先：また何か話したくなったら、ここに連絡してください。

《 迎えが来るまで中立的なことを話す。子ども退出 》

13. (配置図や身体図などがあれば、電源を切る前に、カメラに示す)

今は \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分です。これで面接を終わります。

[録画終了]

---

本手続きはLamb, M. E., Orbach, Y., Hershkowitz, I., Esplin, P. W., & Horowitz, D. (2007) A structured forensic interview protocol improves the quality and informativeness of investigative interviews with children: A review of research using the NICHD Investigative Interview Protocol. *Child Abuse and Neglect*, 31, 1201-1231. Hershkowitz, I., Lamb, M. E., & Katz, C. (2014). Allegation rates in forensic child abuse investigations: Comparing the revised and standard NICHD protocols. *Psychology, Public Policy, and Law*, 20, 336-344. Revised Investigative Interview Protocol Version 2014 にもとづいています。プロトコル本体や最小限の手続きは <http://nichdprotocol.com/the-nichd-protocol/> , <https://forensic-interviews.jp/> からダウンロードできます。研修で本資料を配布される際は [RISTEX: 多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装「NICHDプロトコルにもとづく司法面接の最小限の手続き」(仲真紀子)] であることを記述してください。